

くらぞうみやた 蔵増宮田遺跡

遺跡番号 210-152
調査回数 第1次
所在地 山形県天童市大字蔵増字宮田
北緯・東経 38度21分57秒・140度20分20秒
調査委託者 山形県村山総合支庁建設部道路課
起回事業 主要地方道天童大江線 蔵増(2)工区 道路改築事業(天童市蔵増地内)
調査面積 2,230 m²
受託期間 平成24年5月11日～平成25年3月29日
現地調査 平成24年6月4日～10月16日
調査担当者 齋藤健(現場責任者)・渡邊安奈
調査協力 天童市教育委員会・山形県教育庁村山教育事務所・三郷堰土地改良区
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代
遺構 河川跡
遺物 土師器・須恵器・木製品・石製品 (文化財認定箱数:115箱)



遺跡位置図(1:50,000)

調査の概要

蔵増宮田遺跡は、村山盆地中央部にある天童市西部に位置し、最上川右岸の立谷川扇状地と乱川扇状地にはさまれた氾濫平野に立地する。周囲には、古墳時代後期の国指定史跡西沼田遺跡が680m南にある他、東北中央自動車道建設時に調査された蔵増押切遺跡、板橋1、2遺跡、的場遺跡などの古墳時代前期から中期の遺跡も1,600m圏内に収まるなど、古墳時代の遺跡が集中する地域である。

今回の発掘調査は、23年度に県文化財保護推進課によって実施された詳細分布調査の結果を受けて、遺物や遺構が確認された2,230 m²を対象に実施された。

遺構と遺物

調査の結果、調査区からは建物跡など明瞭な生活痕跡を示す遺構を検出することができなかった。

確認されたのは、堆積土の状況から同一河川とみられる深い河川跡2か所(SG3、7)とその上に形成された浅い河川1か所(SG2)である。調査区西側は低湿地となっているが、水田跡などは確認できなかった。しかし、低



写真1 土器集中出土地点(南から)

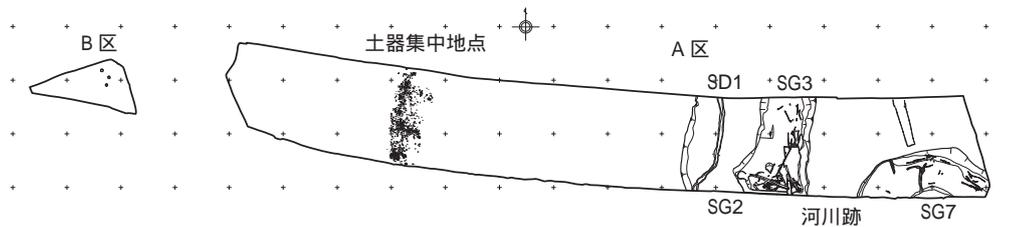


図1 遺構配置図 (1 : 1,000)

湿地との境界のゆるい傾斜部分からは、集中的に投棄された土器群を確認できた。あとは時期不明の溝跡1か所 (SD1) のみである。

浅い河川跡の堆積土は一部深い河川跡を覆うように検出されたが、出土する遺物にそれほど大きな時期差は無いようである。従って深い河川跡が急速に堆積した後に浅い河川が形成されたとみられる。

深い河川跡からは多くの土師器の他にも鋤、鍬、横槌などの農工具、織機の一部や糸杵、紡錘車などの紡織具、槽や曲物の底板などの容器、弓などの木製品が出土した他、杭材も多数出土した。大型の横槌は激しく摩耗した痕跡があり、掛矢として使用されていたとみられる。細部まで丁寧に仕上げ実用品とは考えられない小型の横槌も1点出土した。鋤は平鋤2点、鍬はナスビ型曲柄鍬2点と直柄横鍬を1点確認している。弓は半分欠損しているが、握りの部分に樹皮を装飾的に巻付けたほか、表面に何かを塗布している。

また、川岸には杭を打ち込んで木材を固定していたような地点も確認でき、なんらかの護岸施設か足場として設置した可能性も視野に入れて検討する必要がある。

低湿地との境界の土器群は、極めて近い時期に連続的に投棄されたとみられ、器種は坏、高坏、鉢、壺、甕など多種にわたる。須恵器は、歪みが激しく口縁部が欠損

した大型の甕のみ確認できた。

まとめ

今回の調査で、蔵増宮田遺跡からは明確な生活痕跡を示す遺構は確認できなかったが、土器が大量に投棄された地点と河川跡を確認することができた。

河川跡からは、土器だけでなく木製品も出土しており、特に農工具の点数が目立つ。

出土した遺物は、いずれも古墳時代中期のもので、近接する古墳時代後期の西沼田遺跡とは直接的なつながりは無いとみられるが、平成10～11年度に発掘調査した、成生地区にある的場遺跡とほぼ同時期と想定される。



写真2 河川跡俯瞰全景 (北西から)



写真3 SG3 河川跡出土ナスビ型曲柄鍬



写真4 SG3 河川跡出土土曲物底板